
恋の薬をお願いしますっ！

沙菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋の薬をお願いしますっ！

【Zマーク】

Z6568X

【作者名】

沙菜

【あらすじ】

あたし、桐谷ルイー・中学3年生の元気が取り得な女の子ですっ！

そんなあたしが、なんか恋しちゃったみたいなんだよね・・・こんな気持ち初めてでどうしたらいいのかわからないんだ・・・

嬉しい事、辛い事、たくさんあるけど、やつぱりイツの笑顔を見る
と幸せな気分になるんだ。

そんなあたしの初恋物語、よかつたら聞いてくれない？

あたじこひつじ。 (前書き)

初投稿です。

よかつたら感想お願いします。

厳しい意見もお願いします。

あたじひついじ。

あたしの名前は桐谷ルイ。牡牛座のO型。得意な事は水泳で二ガテな事は勉強。えーっとあとは・・・まあいつか。

学年は中学3年生。そ、受験生なんだよねー。やばいってわけ。でもそんな中友達と遊びに行つてるつてゆーあたしつてやつぱダメだよね~あはは・・・って笑い事じゃないんだけどさあ。母さんには塾に入れさせられたり。マジ勘弁してよね~

えつと、とりあえずあたしのプロフはこ'んなもん。

え、性格が書いてない?そんなのこの話かた見れば分かるでしょ?大雑把で細かい事は気になーーいって感じの性格。でもほんとは臆病なトコもあるなんだけどね。

そんなあたしなんだけど、実は今恋してるんだ。

あたし今まで恋愛なんてしたことないから、いろいろ不安で分からなくて誰かに聞いてほしかったんだよね・・・

そこがあなた、良かつたら聞いてくれない?

新学期は最高だあ！（前書き）

感想よかつたらいただきたいです。

新学期は最高だあ！

季節は春。

身をきるような冷たくとがつた冬の風から、柔らかく感じがあまい
風に変わつていいくこの季節があたしはとても好きだ。

「・・・なうんて、詩人っぽいかな」

あたしらしくないよね。思わず笑いがこみ上げてくる。

でも、春は本当に好きだ。風が変わるもの好きだけど、何より・・・

「ルイーっ、早くクラス発表見に行こひーっ」

遠くから親友の綾芽が手を振る姿が見える。

そうーーークラス替えーーー

あたしの中では修学旅行やキャンプとかよりも気になる学校行事。
席替えとおんなじくらいかな？

今年は本当にいいクラスになつてほしい。

だつて3年だし！ガッコ最後だし！！体育大会とか合唱会とかで賞
とりたいし！！！

どきどきしながら3年の靴箱まで走る。

靴箱の前ではクラス発表を見た子達が喜んだり表情ゆがませたり、いろいろ。

「はーはー、ちょっとじめんね~」

小声でいいつつ、あたしは最前列へ。

えーっと、1組・・・2組・・・3組・・・あ、綾芽は3組かあ・・・4組・・・あ!

あたし4組!!

次にチェックするのは、友達探し。綾芽とは離れちゃったけど、誰かいるかなあ・・・女子、女子・・・あ、唯がいる・・・お、環もいるじやん。あとはー・・・男子・・・あ、リュウがいるーやつたあ!

リュウ（龍太郎）とは、幼馴染であたしの一番の親友。かつこいいし、頭もいいし、バスケ部ではエースだし・・・つまり超モテる奴。こんなのが親友だと、リュウと話したい日当ての女子も結構あたしんとこにくるんだから、時々リュウの才能を恨みたくなるけど・・・ま、今はいいや。

テンション上がってきたあー!!

唯と環とリュウがいる。とりあえずあたしはコレで満足だ。あとのことはなんとかなるよな、うん。

持ち前のポジティブ（自分で言つのもなんだけじね）で、教室に向かおうとしたそのとき、

「ルイー」

あたしを呼ぶ声。

ふりむくと、綾芽が笑って立っていた。

「おー綾芽ー隣のクラスになつちゃつたねー。マジ残念なんだナゾ」「ほんとだよーマジないわー。だつてうちのクラス、仲いい子あんまいないんだもん。ルイがうらやましいよーつ。唯でしょ、たまたちやんもいたでしょー?あと・・・だれかいた?」

「ツユウが一緒だよ」

「えーリュウ?ほんと最高じゃんかあ」

綾芽が頬をふくらませる。・・・なんかふぐみみたい。ふぐみみたいだけど・・・可愛いんだよなあ。

ぼーっとそんなことを考えていると、

「ルイ?」

綾芽が不思議そうな顔でこっちを見ていた。

「急にぼーっとして。大丈夫かあ?」

「だーいじょうぶだあ

あたしの言葉に綾芽が笑う。綾芽の笑い方があたしはす「」く好きだ。
なんか、見ているこっちが癒されるというかなんというか、周りまで嬉しくなりそうな笑い方をするんだよね。

女の子って感じ?

まだ笑っている綾芽にバイバイと声をかけてから、あたしは4組の教室に入った。

名簿を見ると、あたしは一番後ろで、なんとリュウの隣。前の席は唯!!

おーおー、もしかして1年間の運!!で使つてんじゃないんだろうなあ・・・

思わず不安になる。それくらい最高なんだけど・・・

「」たなにクラスがいい代わりに受験で失敗したら困るなあ・・・

「お前でも高校行」うとか思つんだ。びっくり

「ちよっと、あたしはそこまでバカじゃない・・・ってあれ?」

あたしの独り言に皮肉を返す」の口調は・・・

おれのおれふりかえる。・・・・・ああ・・・・・せつぱり・
・・・・・

「おー、なんだよその田。俺じやわらい一かよ」

リュウが口を尖らせて立っていた。左手にはバスケットボールを持つていて、さつきから指先でくるくると回している。器用なやつめ。

「そーいや俺ルイの隣なんだろ？ 席」

「うん、そーみたいだねー」

「ゲッ、やっぱりそうか。マジかよー」

「なに！？ あたしだと不満か？」

幼馴染で親友だと思っていたのはあたしだけかい！ええ？

思わず心の中でつっこむ。

そんなあたしのつっこみは聞こえていないはずなのに、リュウがなぜか吹きだした。

「・・・なによ」

「いやあー？ 別に。まーお前と一緒にクラスならバカやれる奴が増えるからこーけどな。よろしく」

「まいど」

パチンッ。リュウとハイタッチ。

今年の一年はほんと最高な一年になりそーだつ！――。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6568x/>

恋の薬をお願いしますっ！

2011年10月30日22時20分発行